

当報告の内容は著者の著作物です。

Copyrighted materials of the author

第4回（通算第17回）基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」公開セミナー

平成24年7月19日（木）15:00-19:00 AA 研 306 号室

### 「生成する」コミュニティータイにおける社会運動経験から

西井 涼子 (AA 研)

1930年代にインドにおいて、西洋との対峙において始まったダワ、タブリーグ・ジュマート運動は、1960年代にはタイに紹介され、都市部に居住する南アジア系ムスリムを介して広がった。南タイの調査村においても1990年代以降徐々に浸透し、2000年には、村でもダワの活動に従事する人々が現れはじめた。その変化は、それまで酒のみムスリムだった人々が、うってかわってイスラーム実践を熱心に行い、モスクに集う姿に顕著に現れる。

1990年代以降の後期モダニティともいえる状況において、こうした新たなダワ運動に従事する人々が、新しいコミュニティーを形成しているのかどうか、それは1930年代当時の西欧と対峙する近代化に対峙してはじめられたと考えられるタブリーグ運動と異なる新たな動きといえるのかどうか。復古主義ともいえる原点回帰をめざすタブリーグ運動の理念・イデオロギーによる活動自体は大きく変化しているとはいえない現状で、なぜ今こうした運動が広まり、そしてどのような事態がひきおこされているのだろうか。これらのことを、タブリーグ運動に従事している人々の実践から考察した。